



う 羽 化 か

2002年8月
第 33号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 宇田川 幸 子



目 次

| | |
|--|----|
| EIBRK による漢点字変換のための入力マニュアル (6) | i |
| 東洋医学について (5) (小池上 惇) | 1 |
| 連載「点字から識字までの距離」(30) (山内 薫) | 3 |
| 道案内 (馬場 威力) | 7 |
| 点字の読みづらさと漢点字の触読について (17) (岡田 健嗣) | 8 |
| ご報告とご案内 | 14 |
| 漢文のページ | 17 |
| 平野久美子の短歌詠む | 19 |



五 氣・血・津液

(一) 氣

氣とは空気や天気などと同様具体的につかみ出すことはできないが、エネルギーを持ったもので、各器官の機能・神経の作用のようなものです。我が国では、元氣がよいか気分爽快、氣が置けないなど「氣」の付いた言葉がよく使われますが、どちらかというと精神的な要素が強いようです。それに対して、中国では機能面が重視されているようです。

ア 氣の種類

① 原氣

人体にある氣全体を総称したもので、これを先

天の氣と後天の氣に分けることができます。先天の氣とは、親から受け継いだもので腎に存在すると言われています。後天の氣とは、脾・胃の消化吸収により取り入れられた食物の栄養分と、肺から吸収された酸素からなるもので、生後に獲得されたものです。なお、東洋医学では、栄養素のことを水穀の氣、酸素のことを清氣と呼んでいます。

② 宗氣

肺で作られ胸中に存在する氣で、水穀の氣と清氣が合流し呼吸や循環の原動力となる氣です。

③ 榮氣

脾・胃で作られた氣で、脈中に存在し血の運行を助けるものです。全身に栄養を供給する氣です。

④ 衛氣

大腸で作られる強い氣で、脈外を流れ、臟腑を暖め、汗腺の開閉を調節し、皮膚を潤し外邪の侵入を防ぎます。

以上が主な気ですが、その他経絡を流れる經氣、臟腑の働きを司る臟氣、全身の生命力を司る胃の気などもあります。

イ 氣の生理作用

- ① 推動作用・・・成長・発育その他身体のあらゆる活動を促進する作用
- ② 温煦（おんく）作用・・・体温を保つ作用
- ③ 防御作用・・・体を護る作用。現代医学の免疫作用や白血球の作用に当たります。
- ④ 固摂作用・・・血を脈外に漏らさないようにする作用
- ⑤ 氣化作用・・・物質代謝を促進する作用

(二) 血

脈内を流れる液体で、現代医学における動脈血のことです。

ア 血の生理作用

- ① 栄養作用・・・全身の組織に栄養素や酸素を与える作用
- ② 精神作用・・・臟腑の司る精神作用を促進

する作用

イ 血の変化

- ① 血虚・・・血が不足した状態で、現代医学の貧血に当たります。
- ② 瘀血・・・血液循環障害で、現代医学における出血や鬱血、生理不順などを含みます。

(三) 津液

津液とは身体にある全ての水分の総称でこれを更に津と液に分けます。津とは比較的薄い液で体表近くに存在し、液は比較的粘性の強い液体で、関節や脳脊髄に存在します。

ア 津液の代謝

主として脾・肺・腎で行われています。脾や腎は現代医学的にも説明が付きそうですが、肺が水の代謝に関係するというのは、現代医学とはだいぶ違った考え方です。前にも書いた宣発肃降等の作用が、水分代謝における肺の役割です。



イ 津液の生理作用

- ① 皮膚や粘膜を潤す作用
- ② 臓腑に栄養を与える作用
- ③ 関節運動を円滑にする作用

以上で、気・血・津液の説明を終わります。気・血は別なものではなく、気は血の機能面を現したもので、血は気の入れ物のようなものと考えた方がよいのではないかと思えます。

例えば、カセットテープを考えてみると、テープそのものは何の働きも持っていないのですが、それに音声などの情報が入って初めて我々にとって役立つものになるわけです。この場合、テープそのものは血、情報が気に当たるわけです。「パソコンもソフトがなければただの箱」という言葉がありますがこの場合、パソコンのハードは血、ソフトが気に当たるわけです。

今回は、東洋医学における病院について書きたいと思えます。



言葉と身体 (三)

今回は子どもが言葉を獲得していく過程と認知の発達について、ある論文*【本文最後に記載】によって見てみたい。前回にも述べたように人には言語を習得するための積極的なプログラムが生得的に備わっていると考えられる。

しかし、それはアメリカの言語学者であるチョムスキーが主張するように、あらかじめ乳児が言語獲得装置を持って誕生するのではなく、またスイスの心理学者ピアジェなどが言うように、言語や人間のこころを作りあげるのに必要な構造は自然な社会環境の中にあり、言語学習には認知発達

があらかじめ必要である、ということでもないようである。

従って遺伝か環境かという選択の問題ではない、その両方が双方向的に作用して初めて獲得できるものである、というのが最近の認知心理学における考えである。そのために、人間では生後の脳の発達期間を非常に長くして、環境からの入力が発達する脳の構造を形成できるようにしている。

乳児は生まれたばかりの段階でも人間の顔や音声などに関心を持ち模倣するというように人とのコミュニケーションに適合する生得的な傾向を持っている。

三ヶ月くらいまでには足、発声、凝視、表情などの全身でコミュニケーション・ションを行うようになり、パートナーとの間に強力な一対一の感情的な相互のやりとりが行われ、その後で乳児は環境に関心を持つようになる。



八から十二ヶ月に至ると子どもは他者へと関心を広げていく。「渡す」「見せびらかす」「追隨凝視（他者が他のものを見ている時に他者の凝視

を追う）」「社会的参照（新奇なものへの大人の情動反応をモニターする）」などという行為が出現し、十二から十五ヶ月になると「指さし」を行うようになる。

「指さし」には原命令の指さしと原叙述の指さしがあり、前者はほしいものや助力を得ようとして行うもので、後者は事物へ他者の注意を向けようとするものである。

原叙述の指さしが行われるようになる、子どもと大人、そしてこの二人の関係の外にあつて二人が注意を共に向けている事物との三者によって構成されるので「三項関係が形成されるようになった」と言われる。



この三項関係の成立こそ言語獲得の基盤になるのである。

自閉症児の場合原命令の指さしは表出も理解も出来るが、原叙述の指さしは理解も表出も困難であると言われている。自閉症児の最大の障害は対人関係の発達であり、その言語障害の特徴は言語シンボルの使用や理解に限界があることと言われている。

一般に九ヶ月頃に始まる「注意の共有（自分と

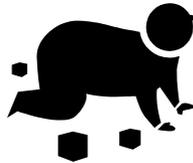
他者が同じものを見ること)「こそ象徴機能出現の基盤であり、社会性発達の基盤であると言うことが出来る。

そして語彙を獲得していく認知的基盤は、

(一) 他者が何について話しているのか、その指示対象を認知してカテゴリをつくる
ことができること。

(二) 他者が言語のさまざまな部分を使用して
いる際にその他者の意図が何かを理解で
きることであり、この二つの能力の上に
語の学習が行われていく。

一歳前後になると意味を伝えるための
大人が理解できる語を発するようにな
る。(マンマ) (アーイ) (よいち
よ) など初期に発せられる言葉は特定
の事物や事象を指す言葉ではなく、動
作に伴う語や動物の鳴き声などである。



日本の子どもが初期に表出する言葉のうち三分
の一が「ワンワン」「ニャーニャー」「ブーブ
ー」のようにオノマトペを事物のラベルとしたも
のや「ネンネ」「ナイナイ」など動作を表す幼児
語である。「ワンワン」「イナイイナイ」バ
ー「アーアツ」「マンマ」を50%の子どもが

発したのは月齢十五ヶ月という調査がある。

その後数ヶ月から一年間一語発話を発し、語彙
が百語くらいに達した時に語結合を表出する。

特に日本語の場合には助詞や助動詞の発達につ
いて調査が行われている。

助詞が出現するのは十八ヶ月齢くらいからで、
依頼の「て」が高頻度で使用され、二十一ヶ月齢
では感情を表す終助詞「よ」「の」「ね」「ね
え」が高頻度で使用されるという。

助動詞(た「過去」、だ「断定」ない「否定」
など)や終助詞(て「依頼」、よ「主張」、の
「訴え」、ね「共感」など)は話し手の意志およ
び判断を相手に伝えるのに役立ち、また聞き手に
コミュニケーションの誘いかけの働きをすること
になり、言語コミュニケーションの開始にとつて
おおきな意味がある。

従って日本語の助詞獲得では、終助詞が先に獲
得され、事柄と事柄の格関係を指す格助詞(が
「行為者」、の「所有」、に「目標」、と「仲
間」など)がその後で獲得されるという研究報告
が多い。

こうした文法の出現は年齢よりも語彙の量に依
存し、日本語では百語以上の語彙サイズが必要で

あり、格助詞の出現が語彙の獲得を急速に促進させる。

特に格助詞の出現後の動詞の増加が大であったという。象徴遊びやいくつかの非言語的活動が並行的に急激に発達する時期であり、このシナプス形成が最も盛んに起こるこの時期が言語や認知の萌芽の時期とよく一致している。

さて、この論文の最後に自閉症児の言語獲得の例が載っている。その子どもは三歳七ヶ月の時に初めて対象指示語と原叙述の身振りが出現し、自発の象徴遊びと場面にあった異なり発話数の平行発達が見られたという。

このケースで象徴能力の出現を可能にしたのは特定の人への愛着であったという。象徴能力の出現は意図的コミュニケーションと密接に関係し、社会的な相互交渉によって発達するという。

この場合、自閉症児からの意図的コミュニケーションを可能にしたのは、子どもからの大人への愛着であったという。

子どもは愛着のできた大人とのコミュニケーションの中で音声や事物の意味を学び、象徴機能を発達させていく。その基盤が指さしの所で説明した注意の共有である。

* 「言語の獲得と認知発達」 小椋たみ子

(『認知科学の新展開 三 運動と言語』

乾敏郎・安西祐一郎編 岩波書店

二〇〇一年 所収)



子ども達に黄色いビニール袋でつくったパンツをはかせて鬼のパンツの歌と体操をやっているところです。

左の文は、会員の馬場威力さまからお寄せいただいたものです。現在米国中南部をご旅行中で、愛用のノート・パソコンをご持参です。時折メールを頂戴します。今回、肌で触れてアメリカらしく思われたところを、お送りいただきました。

道案内

馬場威力

今回古稀を祝い、今後のいっそうの健康を願って、合計百三十五歳の老カプルが計画したアメリカドラマイブの旅で、一番気になったのが、その田舎廻りの中での「道案内」でした。



出発準備の中でも、訪問予定先の州毎の道路地図を十九枚全部集め、用意周到、万事怠りなしのはずでしたが、そこは地図という過去のものと、道路事情という現在、現実との差が随所で発生、

苦労しました。

前の日になって、再確認すると、どうも行けそうもない道が出て来ます。

そこで徹底的に利用したのが、インターステート、と言われる高速道路の州境に必ず設置されている州立の道案内所でした。

そのサービス振りは、各州でまちまちでしたが、普通よく世話をしてくれました。痒いところが手が届くような解説をしてくれました。

一番傑作だったのは、ウイスコンシン州北部の町、スペリオル市からミネソタ州の州都、セントポール市へ行く時でした。

南下する高速道路三十五号線から同市への入り口がどうしても理解出来なかつたものですから、ウイスコンシン州からミネソタ州へ入った第一番目の道案内所へ寄ってみました。

その案内嬢、膨大な手持ちの資料から、いろいろと調べてくれたのですが、分からない。で、彼女はインターネットを利用することを思いつきました。早速YAHOOからの返事を地図付きのコピーで貰えました。「ほっとしました。」

そこには、その道案内所から事細かに、ホテルまでの道筋が書かれていました。この案内所から

高速道路までの距離、高速道路から右折する道の名前とそこまでの距離、その先、ホテルへ到着するまでの一部始終の道路名と距離。因みに、結論のところを書かれていた数字は目的地までの距離一四三・九マイルと所要時間三時間二十七分。もちろん、ほぼこの時間で、無事に到着出来ました。

もっとも、このような道案内を可能にしているのが、「アメリカだなあ」とつくづく感じました、その道路標識の完備さでした。

かなり前から徹底的に道路標識が、大きな字体で目の前に現れます。また、道路整備状況の現実でした。アメリカは車社会、とよく言われますが、それ以上に「道路社会」と言えそうです。

外国人の、地理不案内の私が、四十日間も、ほとんど道に迷わずに目的地まで行けたのですから。



点字の読みづらさ

漢点字の触読について(十七)

横浜漢点字羽化の会 代表

岡田 健嗣

七 点字の漢字には二つの体系がある？ (承前)

「本章では、前回から再度我が国の視覚障害者にとつての〈点字〉が、これまでいかなるものであったか、また、現在どのように位置付けられるものであるかを考えました。

まず本会の活動の中心である〈漢点字〉を創案された川上泰一先生のお考えを整理して、〈漢点字〉が触読文字としてどう評価されるべきか検討を始めました。

ついで、「漢字の点字の二つの体系」と呼ばれているもう一方の〈六点漢字〉についても、考える予定です。

今回は、川上先生が〈漢点字〉を案出されるのに依拠された漢字の〈構造〉と〈特徴〉について述べました。

川上先生の理解される漢字の構造は、後漢の学者許慎の分類になる〈六書〉でした。

〈六書〉とは漢字を六つのグループに分けて整理したもので、それぞれ「象形」「指事」「会意」「形声」「転注」「仮借」と名付けられました。

この内の前四つが、漢字の基本的な構造を表したものです。「象形」と「指事」は、最小単位の文字であって、「会意」と「形声」は、前者を部首（パーツ）として組み立てられたものです。

とりわけ「形声」では、部首がそれぞれその文字の読みと意味を指示するよう働いていて、しかも漢字の数の八十パーセントを占めているものです。

次の漢字の特徴とは、〈形・音・義〉とまとめることができます。

漢字はその構造から、最小単位の「象形」と「指事」をベースに、それを組み立てて「会意」「形声」に発展したものです。

その発展にも一つの法式があって、元の文字の

「形」は、「」読み「」、そして「」意味「」を継承しているのでこう呼ばれています。

川上先生は、この〈漢字〉の構造と特徴を、〈点字〉の世界に実現できないかとお考えになつて〈漢点字〉に到達されました。」



川上先生の〈漢点字〉創作のコンセプト

(続き)

③ 漢点字の構造

〈基本文字〉と 〈八点式の採用〉

川上先生が、〈漢点字〉のプランを温めておられたとき、最も大切なこととして考えておられたのが、点字による〈漢字の構造〉の表現と、「」触読「」に耐え得る点字の体系であるということでした。この二つが達成できなければ、〈文字〉とし

ての機能を果たし得ず、視覚障害者の言語の水準が、現状を脱することなどおぼつかないと考えられました。

川上先生の目には、視覚障害者の言語生活が、貧しくなったといわれる一般のそれに比しても、一層貧相に映じておられました。

その淵源を、一つ触読文字である点字に漢字の体系がなく、公教育で、漢字の教育がなされていないところにあることを、看破されておられたからです。

以下、先生がこの二点にどのように取り組まれたか、跡付けてみたいと思います。

〈基本文字〉 先に述べましたように、先生は漢字をリ組立文字リという認識から始められました。前述の「六書」の内、「会意文字」と「形声文字」を構成するパーツである部首が、元は一つの漢字であること、それが「象形文字」と「指事文字」であることから、この二つを〈基本文字〉と呼ぶことにされました。

次に、点字の符号でこの〈基本文字〉を、どう表現するかということです。

しかし先生は、これを極めてシンプルにクリア



されました。と申しますのは、点字の基本的な考え方に戻って、レイ・ブライユの法式をそのまま採用されたからです。

ブライユの方法とは、



という十の点字符号の基本形に、下の二つの点を付けることと、この十の符号を、下の列に下げること、五十個の点字符号を作ったことを言います。

そしてブライユは、頭から二十五番目までの符号を、アルファベットの順位に合わせて、アルファベットに当たる点字符号を決めたのでした。
(Wだけは、当時はまだ、一般にもその位置付けが定まっていなかったもので、後に、四十番目の符号が当てられました。)

〈日本語点字〉の創案者石川倉次先生も、このブライユに倣って五十音の仮名文字の点字をお作りになりました。

石川先生は日本語の五つの母音を点字符号の左

上の三つの点（⠠）で表して、それに右下の三つの点（⠢）の何れかの点を無声子音に当てて、ローマ字の表記を点字符号一マスで表現することをお考えになりました。

これらを参考に川上先生は、点字の（部首符号）を作って、それを組み合わせて複雑な漢字を表現できないかとお考えになったのでした。

点字は、縦三つ、横二列の六つの点の構成です。その中から、二つ以上の点でできる組み合わせは、五十七通りです。この五十七個の点字符号を、先生は漢字五十七個に当てました。

これが〈第一基本文字〉です。

これは別名（一マス基本文字）とも呼ばれて、一マスだけで表される最も基本的な文字です。

この五十七個の文字はまた、最も基本的な部首として、新たな文字を組み立てるパーツとなるものでもあります。

幾つかの例を挙げてみます。《表一参照》
（□内は仮名点字符号としての読みです。）



【表 一】

| | | | |
|-------------|-----|-----------|-----|
| ⠠⠠ [キ] | = 木 | ⠠⠠⠠ [キキ] | = 林 |
| ⠠⠢ [メ] | = 目 | ⠠⠠⠢ [キメ] | = 相 |
| ⠠⠠ [タ] | = 田 | ⠠⠠ [ラ下がり] | = 肉 |
| ⠠⠠⠠ [タラ下がり] | = 胃 | | |

【表 二】

| | | | |
|------------|---|------------|---|
| ⠠⠠ [カ] | 金 | ⠠⠠ [コ] | 子 |
| ⠠⠠⠠ [カア] | 川 | ⠠⠠⠠ [コア] | 工 |
| ⠠⠠⠠ [4カ] | 干 | ⠠⠠⠠ [4コ] | 共 |
| ⠠⠠⠠ [5カ] | 朱 | ⠠⠠⠠ [5コ] | 呉 |
| ⠠⠠⠠ [6カ] | 瓦 | ⠠⠠⠠ [6コ] | 公 |
| ⠠⠠⠠ [4 5カ] | 可 | ⠠⠠⠠ [5 6コ] | 甲 |

しかし、漢字の部首は五十七個では間に合いません。二百を越える数が必要です。

そこで川上先生は、一つの点字符号を、複数の部首に当てることをお考えになりました。

〈第一基本文字〉五十七個を、それぞれ三つ、四つの部首に当てる、それぞれ三倍、四倍の働きをさせて、点字符号の不足を補おうとされたのでした。

その例を挙げてみましょう。

《表二参照》

ご覧のように、一つの点字符号に、五つも六つもの部首の働きを求めることになりました。このことから、勢い「漢点字は難解だ」という評価に導かれたのも無理からぬことでした。

漢点字使用者の中からも、字形や字義の解釈の困難さを訴える声が上がりました。

しかし川上先生は、「総てをきちんと覚えようとしないうで、とにかく常用漢字の最後までやってみなさい。その後に、ゆっくりと復習すればよろしい。総て忘れてしまってもかまわない。忘れて覚える、これが漢点字を身に付ける秘訣です。」とおっしゃっておられました。

これは大変示唆に富んだお言葉で、私たちが漢

点字の習得に取り組んだ当初は、どうしても一回でマスターしようとして頑張ってしまった。これは誰にも共通したことのようにです。

しかしそれは長続きしません。圧倒的な漢字の数です。「忘れて覚えよ」は、そんなとき、天からの声に聞こえたのを忘れることができません。

漢点字の最も大きなウイーク・ポイントである点字符号の重用化は、確かに厄介な問題ですが、決して克服不可能なものではありません。

（漢点字符号についての詳細は、『イラスト版、漢点字ってどんな字？ 十八』以降（本誌十九号より）をご参照下さい。）

（八点式の採用）もう一つ川上先生の英断があります。漢点字を、従来の点字である六点式に拘らず、八点式に踏み切られたことです。

先生が漢点字の開発に着手された当初は、「点字は六点」という固定観念に縛られておられました。

漢点字も六つの点で表して、仮名文字との区別を、数字やアルファベットと同様に、前置符号を付けることで充分とお考えでした。

しかしお勤めの盲学校の生徒さんに教えている



内に、 \llcorner 読み \llcorner で立ち往生する姿に直面されました。

そして「これは触読の未熟さによるものではない」と直感されたのでした。先生は、当時、欧米の点字に八点式が出ていることに着目されて、独自に八点式の研究を始められました。

欧米の八点式は、従来の六点の下に二点を付ける方式です。

川上先生は、日本語の独特の表記法である漢字仮名交じりを、十全に触読することを目標に置かれて研究された結果、欧米の八点式では無理というご判断に至りました。

欧米のそれとは反対に、従来の六点の上に二つの点を乗せる形が、日本語の触読に最も適したものであることを発見されたのでした。

その理由を考えますと、触読に際して最も初めに求められるのが、その点字符号が漢字であるか仮名であるかの判断です。

その後読みに入るので、読んでから漢字か仮名かを判断するものではありません。

また指の動きから見ますと、上から下へ、左か



ら右へが自然な動きですので、先ず、余計な点の上に乗っているかどうかを見るのが最も合理的だということになります。

点に乗っていれば漢字、乗っていないければ仮名、という判断が即座にできるからです。

ここでは八点式を強調しました。

しかしこの八点というのは、点字の基本形に踏み入ったものではありません。

文字に当たたる点字符号は、従来の六点式を踏襲していて、漢字であるか仮名であるかの区別だけが、この上に乗せた二つの点によって有効となるのです。

このことが漢点字の触読を、従来の点字に劣らない程に容易にしている理由なのです。



さて、一つ例を挙げましょう。芭蕉の句、

夏草や兵どもが夢の跡

これを従来の仮名だけの点字の表記では、

ナシクサヤ ツクキノゴキガ ユメノ アト

となりません。漢点字では、

ナシクサヤ ツクキノゴキガ ユメノ アト

この上に飛び出した点の付いた点字が、漢点字です。

以上、川上先生が最も大事にされたのが、「読むこと」でした。漢点字の開発に当たっても、先ずこのことを念頭に置かれて当たられたというところが、私たちにとって、何にも増して、幸せなことと言わなければなりません。



(つづく)

(今回は、「六点漢字」について述べる予定です。)

つ報告とご案内

1. EIBRKRWシステム

EIBRKRWは、本会が開発した、漢点字の電子データファイル・EIBファイルを読むためのウィンドウズ用システムです。

音声出力は、スクリーン・リーダーの2000リナーに対応しております。

本誌テープ版三十二号とご一緒に、読者の皆様にお送り致しました。既に多数の方々から、期待のお声が届いております。

本会では、今後EIBファイルのライブラリー作りを力を入れて参る所存です。近く、これまでに製作した漢点字訳書の目録をまとめる予定です。ご利用下さい。

また、EIBファイルを作製する、漢点字変換システム、EIBRKRWの新バージョンも、近く完成する予定です。



これまで視覚障害者には、テキスト・ファイル編集用のエディタ・WZとのリンクでしか使用できませんでしたが、新バージョンでは、EIBRKW単独に使用できるようになります。

機能的には、スクリーン・リーダーの指示とピンディスプレイの表示の確認によって、文書ファイルを作製します。すなわち、ピンディスプレイ表示のエディタとしての機能が充実します。

また、漢点字のデータ・ファイル・EIBファイルを作製して、漢点字の電子データの交換と保存が可能になります。

勿論旧バージョンの中心的な機能であった点字プリンターへの出力も、引き続き充実して参ります。

**EIBRKW' EIBRKRWに使用できる
ピンディスプレイのパラメータをご紹介します。**

ブレイル・ノート40A..

八つ、三組のディップスイッチ があります。

左からON(1)／OFF(0)をします。

00000100 10110010 00101100

ブレイル・ノート46C・D..

Local: (mode)siol (rs232c)b9600 18 si
(parameter)hex ping
ブレイル・メモ16.. 上付き八点

二．ホームページについて

予定より遅れがちではありますが、鋭意製作中です。

アドレスが以下のように変わりました。

URL..http://ukanokai.hoops.ne.jp

三．岡田よりの報告

既に充分立証済みではありますが、漢点字の有効性を、私(岡田)なりに検証してみたいことと、私自身の現在の実力をも検証してみたいという希望を持って、この四月から、放送大学の専科を履修することになりました。

放送大学は、生涯学習をテーマに学んでいる学生が多いのが特徴です。入学試験がありませんので、学習意欲のある人は、直ぐにも入学できます。

私は、文学系を中心に履修する予定です。

先ず一科目だけ「国文学入門」に挑戦してみました。本会の会員の皆様に、印刷教材の漢点字版を製作し

ていただいて勉強しました。ローマファイルの入ったパソコンを試験場に持ち込んで受験しました。

一科目の学習を終えての感想は、漢点字版の印刷教材さえあれば、単位の取得には、特に障害はなかったというものです。

しかし、学習の目的は、単位の取得ばかりではありません。

また、多くの科目の履修を希望したり、学生の数が増大したりした場合、教材作りはたちまち頓挫してしまいます。

このことは古くて新しい問題で、何時でも直面しているものです。とりわけ漢点字を使って、より深い学習を志す方々には、大きな課題となるものでしょう。

今回履修致しました「国文学入門」は、二〇〇三年度まで放送されます。

印刷教材のローマファイルは、必要な方にはお届けする用意がございます。

ご入り用の方は、お申し出下さい。



四．その他

①漢点字学習者の募集：視覚障害者(児)の方で、

漢字に関心をお持ちの皆様、漢点字を学ぶこと

で、漢字の世界に踏み入れることができます。

本会では、そのようなご希望をお持ちの方に、通信教育や、面談の形で、漢点字の学習のお手伝いをしております。漢点字を身に付けることで、自らのバリアを解消しませんか。

②ボランティアの募集：本会では常時、漢点字訳の

ボランティアを募集しております。

本会の活動の主なところは、コンピュータを使っての漢点字訳です。活字書から文書をコンピュータに打ち込んで、文書(テキスト)ファイルを作製していただきます。できたファイルを、本会の開発した漢点字変換プログラム・E-IBRWで、漢点字の文書に変換して、編集します。従って募集の対象となる方は、コンピュータをお持ちで、テキスト・ファイルを作製できる方です。

また、初歩的な点字の知識をお持ちであれば、なお結構です。漢点字をご存知である必要はありません。皆様のご参加をお待ち申し上げます。以上、お問い合わせは、E-MAIL..

takeshi-okada@n2.dion.ne.jp

までお願い致します。

漢文のページ

『論語』 (子罕) より

子曰、後生可畏。

焉知來者之不可

如今也。四十五十

而無聞焉、斯亦

不足畏也已。

子の曰わく、後生畏る可し。焉んぞ來者の今に如かざるを知らんや。四十五にして聞こゆること無くんば、斯れ亦た畏るるに足らざるのみ。

後生⇨後から生まれた者、「先生」に対する言葉。後輩、若者の意。

先生がいわれた、「青年は恐るべきだ。これからの人が今「の自分」に及ばないなどと、どうして分かるものか。ただ四十五の年になっても評判がたたないとするれば、それはもう恐れるまでもないものだよ。」

【右の読み下し文と現代語訳は、岩波文庫『論語』（金谷 治 訳注）に従いました。】



〔文字の用法〕

「焉知」の「焉」は、疑問や反語を表し、「いづくんぞ」と訓読する。

「無聞焉」の「焉」は、句の末尾に添えられる助字で、断定や語調を強める働きをし、多くの場合訓読では読まない。

「不足畏也已」の「已（のみ）」は、文末につけて、ずばりと言いつ切る語気をあらわす。

※『論語』の各篇の名前は、初めの二文字から採られています。
 「子罕」篇は、「子、罕言利與命與仁。」（子、罕に利と命と仁とを言う。|| 先生は、利益と運命と仁については、言葉を慎んで、やたらに口にしなかつた。）という、ごく短い章ではじまります。

子 ノ 曰ハク、 後 生 可シ

畏ル。 焉ンゾ 知ラン

ヤ 來 者 之 不ルヲ 如

カ 今ニ 也。 四 十 五 十ニシ

テ 而 無クンバ 聞コユルコト

焉、 スレ 亦タ 不ル

足ラ 畏ルルニ 也 已。



しづやかにこがえ揃わたれる 風の音を
 ききつつ冷えし 乳を啜りぬ かねこ金子 くんえん薫園

少しの風のある日であろうか、梢を渡る風の音が聞こえる。聞くともなく聞いている、冷えた牛乳をカップに入れてゆっくりと飲んでいる。乳を飲むではなく啜りぬという表現にそのゆっくりした動作が出ている。風も牛乳も静かに作者を充たしてゆく。牛乳を飲む事が今ほど日常化されていない頃の一首。

シャンプーの 香りに満ちる 傘の中
 つぼみとはもしやこのようなもの はやかわ早川 しおり志織

若い女性のしなやかな感性に充ちた一首。一度読めば誰でもが「ああ、ほんとうに」と思うような平明な歌であることも大切なことだと言える。雨の日、多分霧雨のような細かな静かな雨、明るい午後だろうか、傘の空間に自らの髪の毛のシャンプーの匂いがふんわりとしていて、つぼみのようだと感じた作者、二十代の若々しさに溢れている。

編集後記 もうお気づきとは思いますが、十九ページが新しく模様替えをしました。本号より平野久美子さんが選んで下さいます、短歌に解釈をつけていただき、短歌の情景を楽しんで頂きます。紙面をお借りして平野さんのプロフィールをご紹介します。

静岡県出身の一男一女のお母様です。

昭和四十五年に「短歌人」に入会、昭和五十二年短歌人賞受賞、現在「短歌人」同人と認められ、風景・季節・日々の生活を豊かな感性で、詠まれる方です。歌集「五月生まれ」砂子屋書房、「郭公円舞曲」ながらみ書房より出版。

「日頃より、色々なものを良く見て、感じたことを自分の言葉で書くのよ・・・」平野さんの一首に「とうとう枯れてしまひし」「アメリカンブル」そうと決まれば落ち着きもする。寒さの中、枯らすまいと鉢を持つてあたふたしていた私の姿・・・今後も短歌の世界をお楽しみ下さい。

【訂正とお詫び】

三十二号の二ページ上段、四五行目の（陰蹠脈、陽蹠脈）は（陰蹠脈、陽蹠脈）に訂正します。

イラスト版「漢点字ってどんな字？」は都合でお休みします。かさねてお詫び致します。

今回の発行は十月十五日です。宇田川 幸子

※本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断りします。 表紙絵 岡 稲子

10. レイアウト

レイアウトは、本の性格を決めるものです。一冊一冊の本の個性を見ながら、決定します。

(1) 表題

①大見出しと小見出し

原則として、大きな見出しは中程に置き、小さくなるに従って前にずらします。行頭のスペースの数は、偶数を基本とします。

最小の小見出しは、行頭2マス明けて書き、「_」(小見出し符)で区切って、本文をつづけます。

②左寄せ・中寄せ・右寄せ

表題が幾つかあったり、日付や出典、執筆者名などがある場合、左寄せ・中寄せ・右寄せで表します。スペースの数の最小限は、左寄せで行末に10マス、中寄せは左右4マス、右寄せは行頭10マスとします。ただし、全体のバランスを見て判断して下さい。また、その行に収まらない場合は、適当なところで折り返して下さい。折り返しの始まりは、上の行より2マス下げたところとします。

【注】 左寄せ・中寄せ・右寄せは、EIBRKで変換して、編集画面で作業を行います。テキストファイルの段階では、位置の設定はできません。

③「凡例」「目次」「奥付」のように、2、3文字の表題では、「凡例」「目次」「奥付」のように文字間にスペースを入れて下さい。

④部、章、節、項

a) 「第○章」、「第□節」のような場合、「部、章、節、項」の後ろに二つのスペースを入れて下さい。

b) 「I、1、一」「A、a、i、ii、iii、iv、v」のように、見出しの頭につく数字やアルファベットの後に「.」などが無い場合も、二つスペースを入れて下さい。

- c) 数字の後に「. 」がある場合は、原則として後ろに一つのスペースを入れて下さい。ただし、「II. 」のようにローマ数字や、高次の章の場合は、二つスペースを入れて下さい。
- d) (1)、①、(あ)、(A)なども、後ろに一つスペースを入れて下さい。
- e) 文章中に箇条書きの番号がある場合は、その両側に一つづスペースを入れて下さい。ただし、前に「、。」がある場合は、その間のスペースは省略して下さい。
- ① 見る、② 聞く、③ 話す。
- f) 章・節や項目の番号が、文章中に代名詞として機能している場合は、他の語と同様、スペースなしに入力して下さい。
- ①②③の順に (A) や (B) の場合

(2) 引用

①外国語の引用

- a) 外国語引用符として“ ”と‘ ’が用いられます。
日本語文中に外国語が含まれる場合、“ ‘ ’ ”で括って表します。
- b) 外国文を、日本語文とは区別して引用する場合は、外国文の行頭に半角の「¥e」を置き、最終行の行末にも半角の「¥e」を置いて区切ります。

②日本語文の引用：日本語文の中に、短い日本語文を引用する場合は、《 》で括ります。

③タブの設定：日本語文・外国語文何れも長い文章を引用する場合、本文とは区別するために、行頭にタブを設定することができます。引用文の行頭に半角の「¥2」を置き、最終行の行末（改行マークの直前）に半角の「¥¥」を置きます。この設定中は、全ての行の行頭2マスがタブの対象となります。この数値を変えれば、タブの数値が変わります。ただし、数値は偶数でなければなりません。タブを設定した場合、前後1行あけて下さい。
タブの設定は、テキストファイルの段階で行わなければなりません。変換後は編集が可能です。
編集画面では、最後の「¥」は「R」に変わります。

【注】外国文をタブの対象にする場合、必ず「¥2¥e ¥e¥¥」と、タブを優先しなければなりません。

